

# 【ご案内】国内株式発注における私設取引システム導入について

## ■国内株式発注における私設取引システム導入について

国内株式における発注におきまして、運用の委託先である三井住友トラスト・アセットマネジメント(以下、「SuMiTAM」)では、今般私設取引システム(以下、「PTS」)の利用開始を予定しておりますので、下記の通りご案内申し上げます。

### 【導入予定時期】

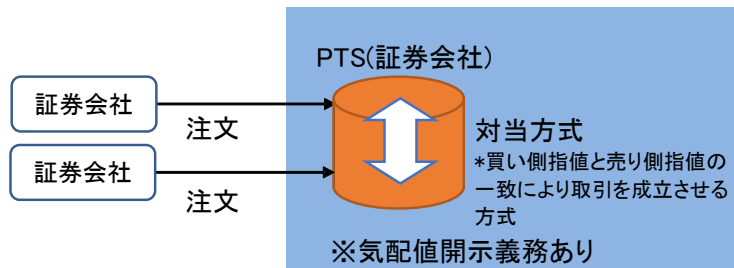
2021年7月下旬以降

### 【PTSの概要】

PTSとは、証券会社が運営するコンピュータ・システムを使用して、証券取引所を介さずに、取引所のように株式を売買する仕組みである「私設取引システム」のことを指します(※1)。

気配値が開示されており市場的な役割を果たしていますが、当該PTS上での取引は取引所外売買に分類されております。

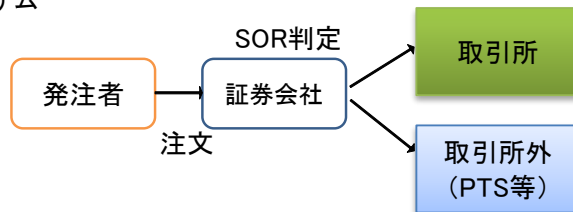
(※1)日本では、ジャパンネクスト(J Market(同社が開設する3つの市場のうち、機関投資家の活用を想定した最も汎用性の高い市場)では33証券会社が参加)とChi-X(30証券会社が参加)の2社が存在



### 【発注方針】

SuMiTAMでは、国内株式における最良執行の一環として、Smart Order Routing(以下、「SOR」(※2))を利用できる証券会社への発注に際し、PTSでの発注を可能とする予定です。SORを利用した発注を行う際は、原則東京証券取引所(以下、「東証」)の立会市場における最良気配を基準として、より良い気配を提示している市場において発注を行う予定としております。

(※2)複数の市場から最良の条件を提示している市場を検索し、注文を執行するシステム



### 【PTS導入の背景】

SuMiTAMでは、最良執行のための選択肢の一つとして、制度の開始当初よりPTSに着目してまいりましたが、近年、SORなどの技術的な進歩やルールの改正によって、マーケットにおけるPTSのシェアが高まり、発注先市場として必要な取引の厚みを備えたと判断したことから今般の導入を検討するに至ったものです。

PTSは、東証と比較して売買する際の価格の刻み幅である呼値が狭いため、東証より有利な価格で約定できる可能性があることから、執行価格改善につながり、ひいては最良執行の実現に貢献するものと考えております(※3)。

(※3)ジャパンネクストの分析では、結果としてPTS(J Market)で執行された注文の8割以上が東証より優位な価格での執行